

## 日時/場所

2009年4月13日(月) 15:30~17:00 / 虎ノ門BCA0事務所会議コーナー

## 出席者(敬称略):

- |                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| 1 宮村(鹿島建設)     | 6 鈴木(アイエフシー)                |
| 2 横田(清水建設)     | 7 菰池(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)    |
| 3 諏訪(大林組)      | 8 杉本                        |
| 4 城崎(セイコーエプソン) | 9 鱒沢(ERS)                   |
| 5 大鐘(大鐘測量設計)   | 10 大貫(富士通アドバンストソリューションズ) 記録 |

## 配布資料(敬称略):

1. 「第4回自然災害研究会議事録」
2. 「中国四川大地震における産業被害と日系企業の被災状況について」
3. 「H20年度活動報告」

## 資料配布方法

参加者のみ配布、議事録は全員配布

## 議事内容

## 1. 話題提供

- (1) 「中国四川大地震における産業被害と日系企業の被災状況について」

神戸大学廣本さんの調査報告の代理報告: 宮村

(ポイント)

地震の規模 モーメントマグニチュード7.8(阪神・淡路の約30倍)  
最大加速度630gal、震源地に近い都江堰で震度5弱

被害は広範囲で連続的な建物被害は顕著でない

日系企業の被害

・174社 1名の軽症を除いて人的被害はない

・建物被害も軽微で天井落下など

・多くの企業が1週間以内で再開

日系企業の事業継続上の問題

・従業員が建物の崩壊を怖がって、参集したが建物に入ってくれない

建物安全性を迅速に評価する手順がない?

・義援金の支払額が公表され、金額が少ないと不買運動が出るなど日本と異なった対応が中国では必要か?

事業の復興状況(地震前との売上げ比較)

・1週間後、50%

・2週間後、70%

・3週間後、140%

詳細内容は配布資料を参照

- (2) 第14回世界地震会議の発表(於:中国)

会場には被害状況の写真の展示があったが、新聞などで発表された内容と同じであった。 など

## 2. 平成20年度活動報告について: 宮村

- ・4月21日(火)9:30~12:00(国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 大ホール)で開催される
- 
- 自然災害研究会の活動報告内容について、「H20年度活動報告」の内容を説明。

・資料の中に諏訪さんの資料や藤井さんの資料を例として入れたい旨の依頼があり、諏訪さんは了承。

藤井さんは欠席のために個別に了解を得る。

## 3. 今年度の活動テーマについての提案: 宮村、大貫

## (1) テーマの概要

被害想定 (BCP作成段階) ~ 地震発生の状況 ~ 復旧という段階であるストーリーに基づいて、被害想定資料作成プロセス、地震発生状況のシミュレーション、復旧のシミュレーションをホームページという形にまとめて、BCPの普及のために広く一般公開するというもの。  
具体的な内容については検討は皆さんのいろんな意見を取り入れたいと思っている。

## (ストーリーの例)

- ・AさんはBCPの対策の一環として会社の を別の拠点へ移転させるため、その候補地選定を行うことになった
- ・候補地の地震リスクなどを調べるためにインターネットで検索したら莫大な情報があった
- ・BCAOの自然災害研究会に所属している知人の協力で各拠点の地震リスクを調べ資料を作成した
- ・Aさんの会社で地震が発生し、その状況をシミュレーション
- ・復旧までの作業などをシミュレーション

## (2) 主な意見

(皆さんから出して頂いた全ての意見は網羅できておりませんのでご了承願います)

地震発生時の状況をシミュレーションするのは地震被害のイメージを伝えやすい  
この一連の段階はBCPの中でどの位置づけになるかということを確認したほうが良い  
リスク評価を理論的にリスクマネージメントのセオリーに則った形にすべきではないか  
(この会社の持っているリスクを全て挙げ頻度や被害などのマトリクスから最も大きな脅威を選定するなどのリスク評価の手順)  
多くの企業がリスクそのものを認識していない状況なので、こういった物はリスクを認識させるのに役立つ  
間違ったリスク評価を伝えることにはならないだろうか? 専門家から見ると誤った内容になるのを危惧する  
(被害想定のポイントでも、評価の段階付けをしており、「この内容を詳細に評価するには専門家などのコンサルが必要」  
などとしている)

被害想定 ~ 地震発生の状況 ~ 復旧というのは従来の防災の考え方で、事業継続ということから考えてどうなのか  
被害想定チェックリストを盛り込んだらどうか  
被害想定は、いろんな相互作用が加わったもので最終的に決まるので簡易版で安易にやることは難しいのではないかと  
分かりやすい事と、間違いは別である。  
設備がどう影響を受けるかが分かればありがたい  
この資料の位置づけは、専門家に依頼する前の入口である  
気象庁が出している震度階級をもっと具体化したものを入れてはどうか  
「被害想定ポイント」にもっと事例を入れたかった

基本的に大筋では賛同は得られたが、意見の中であったように位置づけ、目的や対象者を明確にして危惧される  
「誤った情報を公開してしまうのではないかと」ということなど、伺った意見に対して議論が必要である。

## (3) 地震被害に遭った企業のヒアリングについて

BCAOとしてヒアリングすることについて、理事会で検討中である(宮村)  
対策や計画など、うまくいった事例でないとも他への展開は難しいのではないかと  
アンケートの結果をどう企業へフィードバックするのが問題  
結果に対してブレイクダウンや分析が必要  
ヒアリングは事例の一個一個が大事である(例: 建物はどのような構造、設備はどのように設置したかなど)

## 4. 次回開催

5 / 22 (金) 15:30 ~ 17:30

以上